

## 文献 21

Dyson-Hudson, Trevor A; Kadar, Peter; LaFontaine, Michael; Emmons, Racine; Kirshblum, Steven C; Tulskey, David; Komaroff, Eugene. Acupuncture for chronic shoulder pain in persons with spinal cord injury: a small-scale clinical trial. Archives of Physical Medicine & Rehabilitation. 2007; 88: 1276-1283.

### 1. 目的

脊髄損傷をもつ被験者の筋性の肩痛に対する鍼治療の効果を検討する。

### 2. 研究デザイン

無作為化二重盲検（参加者と評価者）プラセボ（刺入するシャム）コントロールトリアル

### 3. セッティング

外来の臨床医療センター（Clinical research center）

### 4. 参加者

17 人の慢性の筋性の肩痛をもつ車いすを使用している脊髄損傷患者

### 5. 介入

参加者は無作為に割り付けられ 5～8 週間の間に 10 回の施術（鍼治療もしくは刺入するシャム鍼：経穴以外に軽く刺す鍼治療）を受けた。治療後 5 週間のフォローアップ期間を設けた。

### 6. 主なアウトカム評価項目

車いす使用者のためにつくられた ADL 評価のための肩痛インデックス（Wheelchair Users Shoulder Pain Index: WUSPI）、肩の痛みの強さを評価するための 0-10 の数値スケール（Numeric Rating Scale: NRS）

### 7. 主な結果

WUSPI は鍼群、シャム鍼群ともに有意に減少した。鍼群は 66%、シャム鍼群は 43%減少した。しかしながら 2 群間に有意差はなかった。NRS は鍼群で有意に減少し、シャム鍼群には有意差はなかったものの、2 群間に有意差はなかった。同様にフォローアップ期間にも 2 群間に差はなかった。

### 8. 結論

鍼とシャム鍼ともに鎮痛効果かあるいは強力なプラセボ効果があるといえる。鍼には中程度の治療効果があり、このことはシャム鍼よりも優れていると提案できるかもしれない。この研究結果は限定的なパワーであるが、今後より大きな信頼できる方法を用いた同様の RCT が行われる必要があることを示している。

### 9. 論文中の安全性評価

記載なし

### 10. Abstractor のコメント

脊髄損傷を持ち週 40 時間以上車椅子を用いている肩痛を持つ患者を対象にしているという部分が、臨床研究でありながら同様な痛みを持つ被験者を集めることに成功している。シャム鍼群が経穴以外の部位に実際に刺入する方法を用いていることもあり、鍼群とシャム鍼群ともに介入後に有意な疼痛改善が認められていた。しかし筆者も結論で述べているように対象者数が鍼群 8 名、シャム鍼群 9 名という対象者の少なさが、最終的に鍼群とシャム鍼群間で差が認められなかった部分に影響しているため、今後のさらなる研究が期待される。

### 11. Abstractor and date

泉 重樹 2021.2.8